

特集に寄せて

技術・総合力を生かし新規成長分野へ積極展開

エンベデッドシステム・ソリューション事業担当
常務取締役 小柳 勉



エンベデッドシステム業界は一昨年までは成長が著しく、慢性的に開発技術者が不足するという状況が続いていました。しかし、2008年秋のリーマンショックに続く不況の影響で、ほとんどの会社が開発アイテムを最小限に絞り込み、「本当に必要なもの」、「一般消費者が本当に望むもの」だけを開発することになりました。また、業績を改善するために「自社でできることは自社内で開発し、外部への委託は最小限にとどめる」という会社が増えていきます。そのような環境下では、本当に必要なものを低コストで提供できる会社だけが生き残り、そしてお客様と共に成長できると思われま

す。これからの日本は、近い将来石油の枯渇問題、価格高騰問題に直面すると予想されることから、太陽エネルギー、風力エネルギーなどの石油代替エネルギーの活用比率が高まります。それは地球温暖化防止にも役立ちます。新しい発電には自然エネルギーを利用した太陽電池、燃料電池、風力発電などがあり、これらの電力への変換効率を高めることや、他の発電方式との配分を効率的に行うための送変電の確立が必要になってきます。また、自動車がガソリン車からハイブリッド車、電気自動車へ転換するのに伴い、急速充電ができて容量が大きい二次電池が求められています。このようなエネルギーとエコロジーに関連した分野は、世界の国々が力を入れています。当社も従来

から注力している分野に加えて、新たにエネルギー、エコロジー分野に力を入れていきます。

当社のエンベデッド事業は、「システムLSI設計」、基板などのハードウェアからOSやデバイスドライバーなどのソフトウェアを含む「プラットフォーム領域」、そして「応用ソフトウェア」までを揃えて「ワンストップソリューション」を提供できることが最大の特徴です。特に、車載、モバイル、デジタル家電、OA分野に関しては、高品質、短期開発、低コストの要求に応えるために全力で取り組んできました。昨年秋にエンベデッドシステム新規事業推進室を新設しました。エネルギー、エコロジー分野に注力することはもとより、今までに経験のないビジネスモデルについても積極的に取り組んでいきます。

当社では従来からお客様が求める「新しい技術」、「目標の期限までに開発できる技術と仕組み」、「開発コストを削減できる手段」を提供できるように研鑽を積んできました。この厳しい環境ではそれらの要求はますます重要になってきます。お客様の製品の短期開発、低コストを実現するためには、お客様のニーズに合った製品提供が重要となります。常にお客様のニーズを捉え、ソフトウェアIP(Intellectual Property)、ハードウェアIPをいち早く市場に投入できるよう、自社製品の開発、パートナー製品をラインアップして、お客様に提案しています。自社開発の

ソフトウェアIPとしては、WPS/WPA準拠の製品を開発し、セキュリティ要求の高い組み込み機器への無線LANクライアントに搭載を目指しています。ハードウェアIPとしては、固有値分解技術を利用した画像認識や音波認識を低コストで実現できる「FocusNavi(フォーカスナビ)」を開発し、車載分野やカメラ分野への参入を目指しています。また、ソフトウェアの開発効率を高め、低コストで十分な設計検証ができる開発ツール「M-RADSHIPS(エムラッドシップス)」を開発しました。開発のいろいろな場面でお役に立てるものと確信しています。

当社は、5月12日から開催される第13回組み込みシステム開発技術展(ESEC)に出展します。東芝情報システムの総合力で、お客様のスマートな製品開発を支援する組み込みソリューションを紹介いたします。本号では、ESECの展示物に合わせ、開発手法、カメラを利用した次世代ユーザインタフェース技術、システムLSI設計事例などを紹介しています。従来のコンシューマ分野から新成長分野において、システムLSI設計領域、プラットフォーム領域、応用ソフトウェア領域まで、お客様のニーズに合わせたソリューションを提供していきます。